～子宮頸がんの早期発見に検診を～

子宮頸がんは若い日本人女性のがんの中で重大な疾患です。近年、罹患率、死亡率ともに若年層で増加傾向にあります。子宮頸がんは、初期には症状がないことが多いため、２年ごとの検診が重要です。定期的な検診により前がん状態（異形成）で見つけられることが多く、経過観察により負担の少ない治療を行なうことが可能となります。

※細胞診による子宮頸がん検診は、死亡率減少効果があることが認められていますが、１００％の精度ではありません。がん検診で必ずがんが見つけられるわけではないこと（偽陰性）、がんがなくても検診の結果が「陽性」となる場合もあること（偽陽性）、がん検診で見つかったがんが「治療しなくても死亡の原因にならない」場合があること（過剰診断）などをよく理解したうえで、正しい知識を持ってがん検診を受診してください。

子宮頸がん検査の方法

「内診台」という婦人科の診察台に、下着を脱いで座り、柔らかいヘラや綿棒で子宮頸部の粘膜から細胞を採取します。

検診結果・精密検査の方法

＜精密検査不要＞

検査の結果、その時点では、「精密検査の必要がない」という意味です。今回異常がなくても、定期的に検診を受けましょう。

＜要精密検査＞

要精密検査とされた方は、婦人科のある医療機関で精密検査を必ず受けましょう。
主に組織診が行われますが、細胞診の再検査やHPV（ヒトパピローマウイルス）検査等が行われる場合もあります（組み合わせて実施する場合もあります）。

- 組織診：コルポスコープ（膣拡大鏡）という内視鏡で観察しながら、異常が疑われる部位から少量の組織を採取して検査します。
- HPV 検査：子宮の入り口を細胞診と同じように柔らかいヘラや綿棒で検体を採取して検査します。

※精密検査の結果は個人情報保護法の例外事項であり、個人の同意がなくても依頼のあった自治体へ報告することとなっております。

子宮頸がんの原因と予防

子宮頸がんはセックスにより感染するＨＰＶ（ヒトパピローマウイルス）の感染が主な原因です。子宮頸がんは、20 歳代、30 歳代の若い女性に増えており、初期はほとんど症状が無いので１度でもセックスの経験がある人は定期的に検診を受けることが大切です。

部位別がん死亡数の順位

	１位	２位	３位	４位	５位	６位	７位	８位
女	大腸	肺	膵臓	乳房	胃	胆のう・胆管	肝臓	子宮

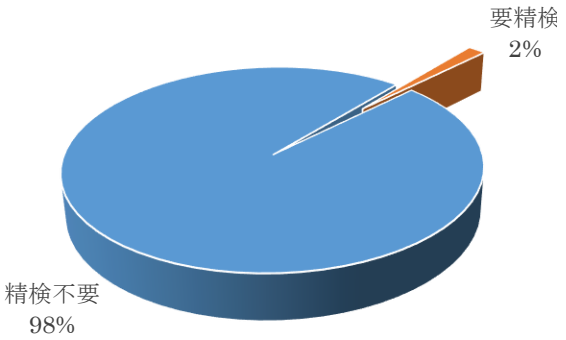
資料：がんの統計２０２５（公益財団法人　がん研究振興財団　発行）

※東大和市では令和６年中に２人の方が子宮頸がんで命を落としています。

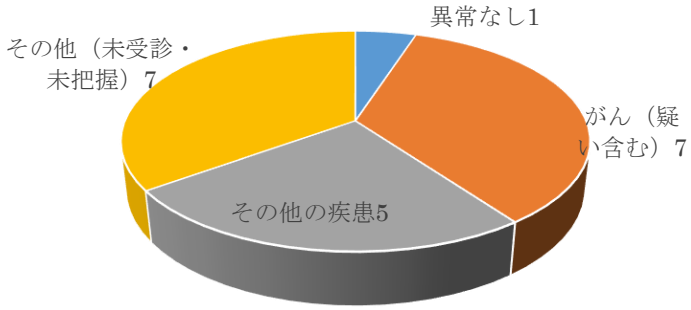
令和６年度東大和市における子宮頸がん検診実施状況

東大和市で子宮頸がん検診を受診した １２２３人のうち、検診結果で要精密検査となった方は２０人でした。精密検査を受診した方の結果は、子宮頸がん（疑い含む）７人、その他の疾患５人、異常なし１人でした。

一次検診受診者　　１２２３人
要精密検査者　　２０人



要精密検査者２０名の内訳



お問合せ：東大和市健幸福祉部健康推進課成人保健係（東大和市立保健センター内）　電話：042－565－5211（月～金　９時～17 時）